

日本史 A、日本史 B

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

日 本 史 A

1 前 文

平成21年3月告示高等学校学習指導要領（以下「学習指導要領」という。）による2年目の大学入試センター試験である。今年度の平均点は37.47点で、昨年度より3.34点下降した。「日本史A」と「日本史B」の平均点（59.29点）格差は21.82点と、昨年度（24.74点）に比べて縮小した。

以下、今年度の問題について(1)～(4)の視点で分析を行った。

- (1) 学習指導要領（標準2単位）に準拠し、教科書の内容や授業実態に即した形式・難易度・内容の問題であったか。
- (2) 「日本史A」設置の趣旨を生かした「地理的条件や世界の歴史と関連付け」がなされ、「歴史的思考力」を評価する問題であったか。
- (3) 項目別・分野別出題範囲のバランスが取れていたか。
- (4) 出題方法や表現などが適切であったか。また、60分の試験問題としてふさわしかったか。

2 試験問題の設問形式・分量・難易度・出題範囲

本試験の設問形式（表1）

丸数字は各4点、それ以外は各3点、（ ）内は配点

設問形式	問題番号	平成29年度	平成28年度
正しい事項（人名・語句など）を選択	13	1題（3点）	0題（0点）
誤った事項（人名・語句など）を選択		0題（0点）	0題（0点）
二つ以上の事項（人名・語句など）の組合せ	1 6 7 11 14 17 19 20 28 30	10題（30点）	9題（27点）
正しい文章を選択	9 ⑫ 21 23 25	5題（16点）	5題（16点）
誤った文章を選択	10 29	2題（6点）	2題（6点）
二つ以上の文章（正誤）の組合せ	③ 4 5 8 15 22 26 27 ⑳	9題（29点）	11題（33点）
古いものから（年代）順に配列	② 16 18 24 31	5題（16点）	5題（18点）
		32題（100点）	32題（100点）

本試験の難易度（表2）

下線部は「日本史B」との共通問題

	問題番号	問題数	前年比
難しい問題	4 <u>23</u> 25 26 29 31	6	+1
やや難しい問題	2 3 6 <u>9</u> <u>10</u> 12 13 15 <u>18</u> <u>20</u> <u>21</u> <u>22</u> 28 32	14	+1
標準的な問題	5 <u>7</u> 11 16 <u>17</u> <u>19</u> <u>24</u> 27	8	-1
やや易しい問題	1 <u>8</u> 14 30	4	±0
易しい問題		0	-1
難易度指数（難しい順に5～1の指数を与え、平均値を算出）		3.69	+0.16

（委員の合議により、教育現場における授業の実態などの観点から、難易度を5段階に分類した。）

本試験の項目別・分野別出題範囲（表3）

□は3点問題、○は4点問題

区 分		政 治	外 交	社 会 経 済	文 化	史料・グラフ 地図・図版等	問題数・配点 ()内は28年度
私たちの時代と歴史		②		⑤	① ⑥	③ ④	6題・20点 (6題・20点)
近代の 日本と世界	近代国家の形成と 国際関係の推移	⑦ ⑨		⑧ ⑩			4題・12点 (4題・12点)
	近代産業の発展と 両大戦をめぐる 国際情勢			⑫		⑬	3題・9点 (5題・16点)
	近代の追究	⑪ ⑭ ⑮	⑯	⑫		⑬	6題・19点 (6題・19点)
現代の 日本と世界	現代日本の政治と 国際社会						0題・0点 (1題・3点)
	経済の発展と国民 生活の変化			⑲ ⑳ ㉑		㉒	5題・16点 (2題・6点)
	現代からの探究	㉓ ㉔		⑳ ㉑	㉒	㉓ ㉔	8題・24点 (8題・24点)
29年度問題数・配点		10題・31点	1題・3点	10題・31点	3題・9点	8題・26点	32題・100点
28年度問題数・配点		7題・22点	5題・16点	8題・26点	5題・15点	7題・21点	(32題・100点)
27年度問題数・配点		9題・27点	7題・21点	7題・20点	2題・6点	9題・26点	34題・100点

- 設問形式では（表1）、正しい事項を選択させる問題が増えたものの、例年どおり多様な形式を用いて受験者の学習の達成を判定しようとする配慮が見られた。
- 全体の分量は、昨年度と同様である。大問5題、設問32題で、第2問と第4問の計12題（36点）が「日本史B」との共通問題であり、4点問題が4題出題された。
- 難易度については（表2）、昨年度の難易度指数3.53が今年度3.69となり難化した。「日本史B」との共通問題の難易度指数が今年度3.58（昨年度3.83）、「日本史A」のみの問題の難易度指数が今年度3.75（昨年度3.35）で、「日本史A」のみの問題の難化により平均点が下降したと考えられる。
- 出題範囲を項目別・分野別にみると（表3）、主題を設定し19世紀半ばから1990年代までと学

習指導要領の範囲内で出題された。政治・社会経済が増加し、外交・文化が減少したが、史料・グラフ・地図・図版等を用い多角的な手法で歴史的思考力を問う設問が多かった。

3 試験問題の内容・表現・程度

第1問 「妖怪」をテーマにした会話文を素材に近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える問題

問1 はやや易しい問題。「中村正直」「福沢諭吉」の判別は容易。「井上円了」「政教社」は細かな知識だがリード文からの判断が可能。

問2 はやや難しい問題（4点）。石橋湛山の「小日本主義」は細かな知識。

問3 はやや難しい問題（4点）。「赤き妖怪」から共産主義を判断するのは難しいが、世界の歴史と関連付けた史料の読解力や思考力を問う良問。

問4 は難しい問題。受験者が身近に感じるとされる漫画やアニメの図版を用いて、高度経済成長からバブル経済の時期までの内容について判断する問題。選択肢の経済的事項の時期判断に経済史の総合的な理解が求められる。

問5 は標準問題。「環境庁」「公害対策基本法」の時期の判断に迷ったと思われる。

問6 はやや難しい問題。物理学者「長岡半太郎」「本多光太郎」の判別が難しい。

第2問 幕末から明治の大坂（大阪）をテーマにした問題、「日本史B」第5問との共通問題

問1 は標準問題。「徳川家定」「徳川家茂」の判別で迷ったと思われる。

問2 はやや易しい問題。幕末の民衆の動きに関する基本的な知識が問われた。

問3 はやや難しい問題。「西郷隆盛」「大阪会議」の判断に迷った受験者もいたと思われる。

問4 はやや難しい問題。「住友」「三池炭鉱」「古河市兵衛」はやや細かな知識が問われた。

第3問 「三島通庸」を素材に近代の歴史的な見方や考え方を問う問題

問1 は標準問題。「島津斉彬」「島津久光」の判別で迷ったと思われる。

問2 はやや難しい問題（4点）。「不換紙幣」の理解や「産業組合」の設立時期は難しい。

問3 はやや難しい問題。明治期の絵画についての図版はどれも教科書・資料集に掲載されているもので正確な知識が必要。文化史学習における視覚的判断を問う良問。

問4 はやや易しい問題。「保安条例」「鹿鳴館」の基本用語の組み合わせ。

問5 はやや難しい問題。「福島事件」「加波山」事件の時期の判断が難しく、松方財政の影響を読み取らねばならない思考力を問う問題。

問6 は標準問題。外交分野のみの並び替えのため難易度は下がったと思われる。

第4問 「近現代の公園」というテーマを素材に近現代の歴史的な見方や考え方を問う問題、「日本史B」第6問との共通問題

問1 は標準問題。「三・一五事件」はやや細かな知識。「憲法」はリード文から判別が容易。

問2 はやや難しい問題。図版の新聞記事だけだと年代判断が難しいが、タイトルや吹き出しから判断が可能。図版から判断させる問題は思考力が必要。

問3 は標準問題。「原」「伊藤」の判断は易しいが、「血盟団事件」の正確な知識が必要。

問4 はやや難しい問題。「大治」「筑豊」などやや細かな地理的知識や思考力が問われた。

問5 はやや難しい問題。「中央公論」「文学界」「キング」など文化の分野に、「民撰議院設立建白書」「新聞紙条例」など政治的事項も加わり、細かい知識が必要で選択肢の判断が難しい。

問6 はやや難しい問題。図版から読解力や応用力を問う良問であるが、「農業協同組合（農協）」は細かい知識であり、時期判断が難しい。

問7 は難しい問題。「国体」「治安維持法」の内容について正確な知識が必要。

問8は標準問題。政治分野のみの並び替えで、歴代内閣の変遷が問われた。

第5問 昭和期の経済・社会に関連した問題

問1は難しい問題。選択肢の内容が細かいため、文化や社会について正確な知識が必要。マルクス主義が「戦後復活しなかった」か否かについて迷った受験者がいたと思われる。

問2は難しい問題。「金解禁」の基本的な知識とともに、史料の読解力や思考力が問われた。

問3は標準問題。「代用品利用」「耐久消費財」の該当期が問われた。

問4はやや難しい問題。地理的な知識が不足している受験者には苦手な形式ではあるが、地理的条件や世界の歴史と関連付けがなされた良問。

問5は難しい問題。労働運動の歴史は受験者が苦手な分野の一つで、選択肢がいずれも細かい。

問6はやや易しい問題。リード文から「田中角栄」「福田赳夫」の判別は容易。

問7は難しい問題。「ニュータウン」「地下鉄」の時期の判断が難しい。

問8はやや難しい問題（4点）。資料の読解力や応用力が問われ消費税導入時期の判断が難しい。

4 要 約

前文で述べた(1)～(4)の視点についての意見・要望を記すことにする。

- (1) 教科書や授業実態に即した出題がなされ、史料・グラフ・地図・図版等を使って、歴史的な思考力を総合的に問う問題が多かった。選択肢一つ一つに細かく正確な知識が問われたことや「日本史A」のみの問題が難化したこともあって難易度は昨年度よりも上がったと思われる。「日本史A」の標準単位が2単位であることを踏まえ、難易度にはなお一層配慮をいただきたい。
- (2) 学習指導要領の目標である「地理的条件や世界の歴史と関連付け」がなされ、「歴史的思考力」を問う良問が多かった。設問に工夫がなければ難問になるが、本年度入試では適切であった。
- (3) 複数の項目や分野にまたがって幅広く思考力・読解力・応用力を問う問題が多く見られたが、昭和戦後以降の出題（特に外交・文化分野）が少なかった。
- (4) 新課程に移行した2年目の試験であり、その趣旨を活かそうとする意図がみられ、一問一答式の学習では対応できない内容の正しい理解を求める設問が多かった。出題数は昨年度と同じ32題で、60分の試験問題としては適切であった。

日本史B

1 前 文

今年度の平均点は59.29点で、昨年度より6.26点下降したが、「世界史B」、「地理B」との得点差は最大6点程度であった。今年度の問題について、次のように分析した。

- ① 要求されていた知識は、各時代の特徴及び歴史的事象の推移・変化、あるいは背景を理解していれば正答を導くことができる適切な構成であった。
- ② 一見難しそうに思える設問にも、リード文や設問文に正答を導くための配慮がなされていた。
- ③ 資史料は多くの教科書に掲載されているものが使用されていた。初見と思われる資史料についても、脚注等を丁寧に読むことで判断できるよう配慮されていた。

上記①～③については、今後も継続していただくことを強く希望したい。

今年度の問題の評価に当たっては、次の4項目を中心に行った。

- (1) 高等学校学習指導要領（以下、「学習指導要領」という）に準拠し、教科書の内容や授業実態に即した出題であったか。
 - (2) 時代別・分野別の出題バランスは適切であったか。また、基本的な知識の理解や「歴史的思考力」を評価するのにふさわしい出題であったか。
 - (3) 60分の試験時間にふさわしい「基本的な事項・事柄」の内容・難易度であったか。
 - (4) 設問形式、表現、図表や写真の取り扱いに配慮した適切な出題であったか。
- (注) 文中で具体的に取り上げる際は、解答番号で表記した。例 15 = 解答番号15の設問

2 内 容・範 囲

例年どおり、学習指導要領の目標に即しての出題であった。なお、文中の「 」内は、学習指導要領からの引用語句である。

(1) 出題傾向

時代別では、昨年同様、原始の単独問題はなかった。第3問は、本年度は中世のみとなった。現代は占領期及び1950年代前半の内容が戦前との融合問題で出題されたのみであった。

分野別では、中世・近世の「産業経済の発展」から「近代産業の発展」にいたる過程についての「基本的な事項・事柄」に関する良問が目立った。文化と政治や外交との融合問題は、「時代的背景」や文化を形成する「様々な要因」を考察させるものであった。設問形式は異なるが1の平戸に関しては28年度本試験17で、32の三菱長崎造船所は27年度追・再試験28で出題されている。重要な事項については繰り返し出題するという出題者の意図を示している。

(2) 歴史的思考力を重視する姿勢

15は鎌倉時代から室町時代にいたる対外関係・政治・文化という多様な分野の事項を取り上げて「中世社会の展開」について問われた。特にⅡⅢについては「相互の因果関係」からも判断することができる構成になっていた。例年どおり資史料の読み取りにより理解力を見る良問もみられたが、素材の選定に当たっては、28年度本試験23の田沼意次に関する出題のような「複数の歴史的解釈」に関するものも検討していただきたい。

時代別・分野別出題傾向（表1）

表中の○数字は各2点、それ以外は各3点

区 分		政 治	外 交	社 会 経 済 交 通	文 化 思 想 宗 教	資 史 料 図 絵 地 図	出題数・配点 () 内は28年度 [] 内は27年度
原始・古代	先土器時代						8題 22点 (8題 21点) [8題 22点]
	縄文時代			2			
	弥生時代						
	古墳時代					↑	
	飛鳥～白鳳時代	←			7	↑	
		←	3			8	
	奈良時代	↑	←			9	
平安時代	10	←	12	↓	11		
中世	院政時代					↓	6題 16点 (6題 15点) [6題 17点]
	鎌倉時代	←		13		↑	
	室町時代	16	18			14	
近世	織豊政権時代						9題 23点 (9題 25点) [8題 22点]
	前期	↑	1	20	↓	21	
	江戸時代		←		19	↓	
近代	後期	22	24	↑	26	23	11題 33点 (11題 33点) [12題 33点]
	前期		25	←	27	28	
	明治時代				6	34	
	後期	36	↑			32	
	大正時代	↓	↑			33	
現代	前期	↑	31				2題 6点 (2題 6点) [2題 6点]
	昭和時代						
	大戦期	35	↑			30	
戦後～占領期	戦後～占領期		29	→		5	2題 6点 (2題 6点) [2題 6点]
	高度経済成長期						
	～現代						
29年度出題数・配点		9題25点	4題11点	9題25点	7題19点	7題20点	36題 100点
28年度出題数・配点		8題23点	7題20点	5題14点	8題21点	8題22点	(36題 100点)
27年度出題数・配点		11題32点	5題14点	7題18点	5題14点	8題22点	[36題 100点]

(3) 内容の取扱い

9、12は、正誤判断に際して何世紀の出来事かについても問われており、歴史事項に対する総合的な理解度を測るものとなっているが、本年度のように年代配列問題が多い場合は、配慮をお願いしたい。34 Yの正誤の判断については機械化というヒントもあるが、農業協同組合（農協）の記述がある教科書は3冊のみである。多様な教科書で学習した受験者が対象であることを念頭に置いた出題としていただきたい。

3 分量・程度

問題数は大問が6題、小問が36問であった。60分の試験時間を考慮すると、大問、小問の数は

適切であると言える。ページ数は30ページであり、昨年度と同様であった（一昨年度28ページ）。文章の正誤を選択する形式の10問について、選択肢の文章が全て2行にわたるものはなかった（昨年度2問、一昨年度2問）。一方で、各小問で提示される選択肢や組合せ問題の文章等、解答に関わる文章が2行にわたるものは12文であり、昨年度の23文から11文減り、一昨年度の21文からも9文減った。ゆえに、問題に関する情報量は、従来どおりであり、問題量に関しては適当であったとみることができる。

問題の程度は、昨年度と同様に「基本的な事項・事柄」を問う出題が主体であった。特に第2問は、古代の政治・社会・文化に関して全般的に「基本的な事項・事柄」の域を脱しない配慮がなされていた好例である。また、学習指導要領の主題学習による歴史の考察・解釈の要素が反映され、**2**は瀬戸内地方、**6**は交通や通信に関して「時代ごとに区切らない主題を設定」し、**2**は縄文時代から江戸時代まで、**5**は古代から近代までを俯瞰する視座を提供した上で、各時代の人々の生活を想起させる良問であった。一方で、**35**では『国体の本義』や治安維持法の内容及びポツダム宣言での国体護持の有無が問われたが、正解に至るにはやや精緻な知識が不可欠であった。

4 表現・形式

(1) 設問形式

設問形式を分類すると表2のようになる。関連事項の組合せを選択する形式は、昨年度の3問から2問増加し5問となった（一昨年度4問）。その内訳は、文章と人名・語句の組合せを選択する形式が3問、文章と地図・作品の組合せを選択する問題が2問であった。史実を「多面的・多角的に考察」するに資するものとして、こうした複合的な設問の出題を今後も継続していただきたい。また、文章の正誤を選択する形式は、10問と依然多く正確な知識を基に事象の流れや背景をとらえる歴史的思考力を試そうとする姿勢が見られる。**8**や**11**は、そのような視点から判断できる良問であった。一方で年代配列を選択する形式は6問であり、昨年度の4問から増加した。**24**は文章Ⅰから文章Ⅲの事項の年代が近接しており、やや細かい知識を問う形式となっているが、尊王思想の興隆の過程や時代観を背景として考察させるなどの工夫が行われていた。

(2) 表現

全体を通して受験者にとって難解な表現は見られなかった。また、**22**の尊号一件（事件）や、**24**の会沢安（正志斎）のように様々な教科書の記述にあわせた語句の併記が随所に見られた。今後も多様な教科書で学習した受験者に配慮した用語の使用をお願いしたい。

第1問のリード文は、大学生の手紙という昨年度を踏襲したものであった。大学生が旅先で既習の歴史事項の理解を深めた経験を、リード文を読むことによって受験者が追体験できる内容となっており、「歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」ことにつながる、とても考えられた文章であった。

設問形式（表2）

表中の○数字は各2点、それ以外は各3点

設問形式		平成29年度		平成28年度
		問題数	問題番号	問題数
事項（人名・単語）を選択する形式		0		0
文章の正誤を選択する形式		10	② ⑥ ⑧ ⑪ ⑱ ⑳ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗	10
二つ以上 文章の組 み合わせ	空欄を補充する形式	7	① ⑦ ⑯ ⑲ ㉒ ㉔ ㉙	6
	文章の正誤の組合せを選択する形式	6	③ ⑫ ⑬ ㉑ ㉒ ㉓	8
	年代配列を選択する形式	6	⑤ ⑩ ⑮ ㉒ ㉓ ㉔	4
	正しい文章の組合せを選択する形式	2	⑨ ⑭	5
関連事項の組合せを選択する形式		5	④ ⑰ ㉑ ㉒ ㉓	3
		36		36

(3) 図表や写真等の扱い

史料・写真・地図・表等は13点（8箇所）であり、昨年度の12点（9箇所）から増加した。内訳では、写真が5点から8点と増加したのに対し、地図が2点から1点と減少した。また今年度は、2年ぶりに表を用いた問題が出題された。⑤ ③⑩は資料を用いた年代整序問題で、写真やポスター、電報文、新聞記事など「様々な歴史資料の特性に着目」させるだけでなく、「歴史資料を含む諸資料を活用」することに効果的な設問であった。⑭では、リード文の下線部b『後鳥羽上皇（京方）』が史料を読み解く手がかりとなっており、初見と思われる史料であっても「資料を活用して歴史を考察」させ、「歴史的思考力」を測ることにつながる良問であった。

5 要 約

(1) 高等学校の授業への影響

史料・地図・写真など様々な歴史資料を用いた出題は継続されている。このような傾向は、高等学校での授業において「基本的な事項・事柄」の理解の上に、「資料を活用して歴史を考察」させることの重要性を再認識させるものであった。

また第1問と第6問のリード文は、教科書の内容を基本としつつ、受験者が深く考察することのできる文章となっており、それ自体が教材となりうる優れたものであった。単に精緻な知識を覚えるのではなく、「歴史的思考力」を培うことの重要性を喚起するメッセージと受け止めたい。

(2) 意見・提案等

第6問は、昭和戦前期から現代までを通覧する内容で、受験者に身近な公園を通して、「地域の文化遺産」について意識させる工夫されたリード文であった。こうした配慮に敬意を表する一方で、高度経済成長期以降の出題が見られなかったことから、問題の作成に当たっては、原始から現代まで各時代のバランスを考慮するようお願いしたい。